

©ラップ東京では、皆様のお役に立てるような様々な内容のコラムを発信しています。バックナンバーは www.raptokyo.co.jp から

「画面の向こうから」

自宅から当時の事務所に向かう途中、ラジオ番組で「先程、関西地方で大きな地震があったようです」とニュースが流れてきました。阪神淡路大震災から27年。あのころは、新聞やラジオ、テレビが情報発信の主な媒体でした。そのため、一般の人に情報が届くのに少しタイムラグがあり、情報自体も少なく、ラジオからも混乱している状況が伝わりました。

当時、ネットは黎明期であり、行政や一部の大学等で被災情報を発信したり、ボランティア募集などに活躍したそうです。その後、情報の共有化はますます進み、大きな役割を果たしていき、現在に至ります。このように振り返ってみると、「情報」を得ることの重要性を改めて考えさせられました。

現在は大容量の情報を世界中で送受信できる時代。ライブ映像やSNSを現地の人リアルタイムで発信することができ、そして、オンライン授業や在宅勤務が日常的に行えるようになりました。

さて、今年も専門学校の非常勤講師として、オンライン授業を行いました。このような状況下でも遠隔地から授業を行うことができ、無事に終了することができました。事前準備にかかなりの時間を割いて行いましたが、なかなか慣れない自分がいいます。受ける学生側はどう感じているのか、理解できているのだろうか？ 現地に行っているときには、困っている学生やわからない学生がいると近くに行ってサポートすることもできますが、オンラインではそうはいきません。マスクをしているので表情もあまりわからず、その場の空気を感じないというオンラインの難しさを感じました。

一方、学生のほうはどうでしょうか。直接の授業だと、この先生はどのような先生か、情熱的なのかクールなのか？ 学生側も肌で感じていると思います。（私の学生時代は、そのように思っていました。）現在は、多くの学生が数年間にわたりオンラインで授業を受けています。最初は戸惑っていた学生も、今となっては直接の授業とオンライン授業とを切り替えて学んでいるのではないのでしょうか。

情報の受け皿（今回は学生側）がオンラインに慣れれば慣れるほど、提供する側はより難しくなっていくと思います。オンラインに慣れた時代の到来です。

でも、考えてみれば、オンラインでもリアルでも相手側が「主」であることには変わりはありません。相手が先、お客様が先、という考えで一生涯懸命やるしかなさそうです。オンラインでも何か違う、と思わせる何かを今後は身につけていく必要があると思います。

阪神淡路大震災が起きた日のことは、今でもよく覚えています。ラジオの大沢悠里さんの声から大変なことが起こったと思いながら、ラップ東京を創業したばかりの私は、仕事に奔走しておりました。

ご案内

簡単更新くん

それほど高機能ではなく、更新したいページを簡単に更新できる「簡単更新くん®」

簡単らいんちゃん

つながりたいをサポートする「簡単らいんちゃん」

【この件に関する問い合わせ】
ラップ東京株式会社
（担当：田島）
TEL: 042-349-3535

